



PeptiDream
Revolutionizing Drug Discovery

**2026年 第2四半期
決算説明会資料**

2026年8月12日

ペプチドリーム株式会社

(東証プライム : 4587)

本日の内容

事業ハイライト & アップデート

P D R ファーマ アップデート

財務アップデート

新任EVP ご紹介

サステナビリティ

総括

Q&A

本日のスピーカー



リード・パトリック
代表取締役社長CEO



村上 雅人
取締役EVP：放射性医薬品事業
P D R ファーマ代表取締役社長



大浦 佳世理
EVP：オペレーション



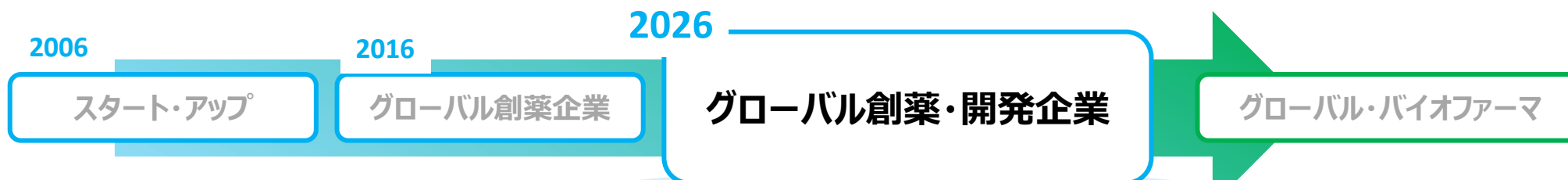
河野 順
EVP：経営戦略



志方 幸道
EVP：ピープル&カルチャー

ペプチドリズムの進化の軌跡

変革を推進する3つの戦略的施策に注力



臨床パイプラインの拡大・進展

- 将来の収益・企業価値向上に資する臨床プログラム数の拡充
- 自社プログラムの臨床開発も提携プログラムに加え推進



5つの重点領域における強固なパイプライン

- 環状ペプチドの優位性を活かせる5つの重点領域において、多様な臨床・非臨床プログラムを推進
- 臨床パイプラインのさらなる拡大を支えるアセット創出エンジンであるとともに、新たな提携・ライセンスアウトの機会の創出にも貢献



規律あるPL・CF管理

- 既存提携からの研究開発収入・マイルストーン収入、新規提携におけるアップフロント収入、およびP D Rファーマの成長を通じて収益を創出
- 研究開発投資、利益・キャッシュフロー創出のバランスを取りながら、**厳格なコスト管理**を継続

臨床パイプラインの拡大 — 価値創造を推進



RI/Non-RI領域の臨床パイプラインの拡大に注力、将来の収益拡大へ

現状の収益

新規提携（契約一時金）
マイルストーン

将来の収益

ロイヤルティ
製品販売売上

臨床プログラム数

5

7

13

19 -25

臨床プログラムが将来収益を生み出す

契約一時金
マイルストーン

国内放射性医薬品
販売売上

2023

2024

2025

2026（予）

2030s

- ◆ コスト管理
- ◆ さらにパイプラインを拡充するために利益を再投資

提携先製品売上からの
ロイヤルティ
(RI/non-RI)

+

ペプチドリーム
製品売上

5つの重点領域から生み出される豊富な事業機会

様々な事業機会から、安定的で多面的な収益基盤を構築



放射性医薬品（RI）領域

✓ 急速に拡大する臨床開発パイプライン

- 様々な開発段階にわたる13プログラムが臨床開発中
- **国内開発**； PSMA, ATSM
- **提携プログラム**； GPC3, FAP, HER2 等
- **自社プログラム**； CA9

✓ 自社・提携の両面で充実した前臨床パイプライン

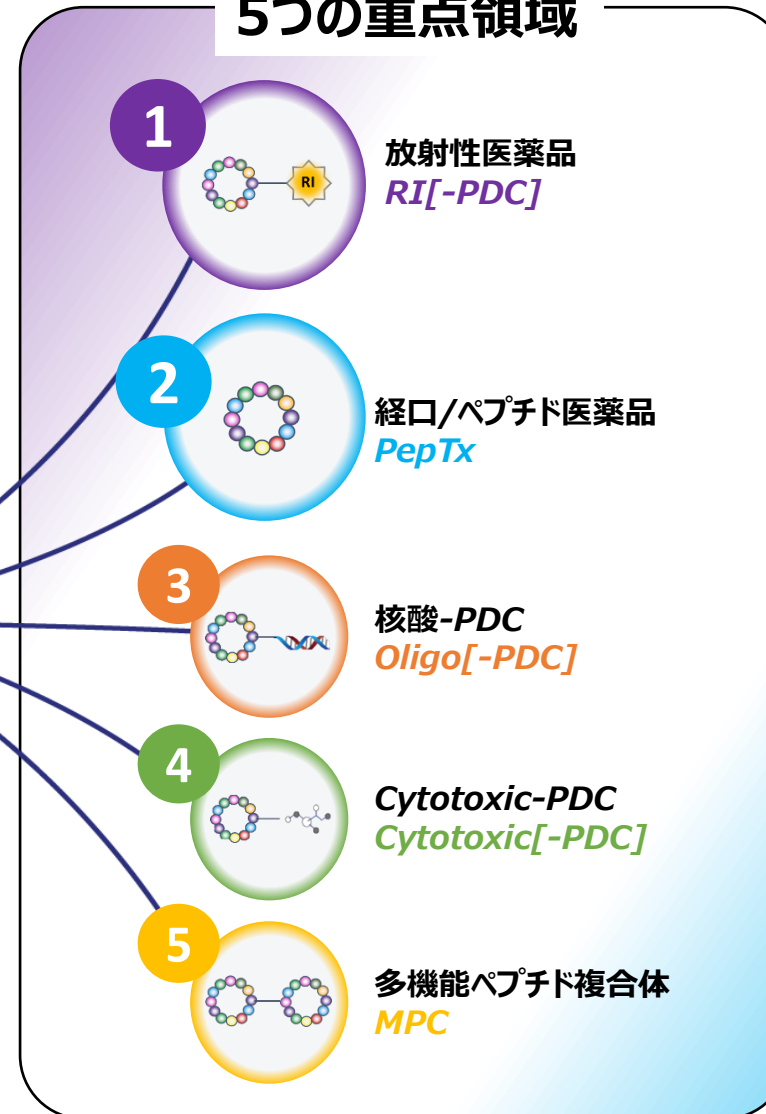
- 当分野をリードするグローバル製薬企業との提携
- 自社プログラム； CLDN18.2, CDH3等.
- 継続的なアセット創出エンジンを保有

✓ 日本の放射性医薬品事業における強固な基盤とPET市場の成長

✓ 多様な事業機会を創出

- 国内での提携・導入
- 海外での提携・導出

5つの重点領域



ペプチド（non-RI）領域

✓ 経口ペプチドを含む幅広いプログラムが着実に進展

- 現在6プログラムが臨床開発中（全て提携プログラム）
- 有望な前臨床段階の提携プログラムが臨床段階へ移行中
- **自社アセット創出**– IL17, myostatin等柔軟な選択肢

✓ 提携核酸-PDCの前臨床パイプラインが順調に進展

- 当分野を牽引する主要製薬企業との数々の提携
- **臨床入りに向けて着実に進展**
- 新規提携への高い関心

✓ 大型提携プロジェクトが順調に進展

- Cytotoxic-PDCのバリデーションを強化
- **臨床入りに向けて着実に進展**
- 新規提携への高い関心

✓ 事業全体にわたり多様な事業機会を創出

- 自社創製アセットの拡充
- 新規提携への高い関心

5つの重点領域 — アセット創出力

環状ペプチド独自の強みを活かし、自社および共同研究による創薬を実施



1

放射性医薬品
RI[-PDC]



- ✓ 標的RI送達に最適なモダリティ
- ✓ 高い標的選択性
- ✓ 優れたがん組織への浸透性と滞留性
- ✓ 迅速な体内クリアランス
- ✓ 汎用性とスケラビリティに優れたプラットフォーム

2

経口/注射
ペプチド医薬品



- ✓ 直近で大型承認が相次ぐ注目領域
- ✓ 注射剤投与のバイオロジクスに匹敵する効果をもつ経口治療を目指す
- ✓ 優れた標的選択性、全身へ効率的に送達
- ✓ 良好な安全性プロファイル

3

核酸-PDC
Oligo[-PDC]



- ✓ 理想的なデリバリー能力
- ✓ 目的組織への精度の高い標的化
- ✓ 高い細胞内送達性
- ✓ 有効性・安全性が向上
- ✓ 多様な標的・適応症に展開可能

4

Cytotoxic-PDC



- ✓ がん標的送達に最適
- ✓ RIデリバリーのコンセプトと優位性を発展
- ✓ 高い腫瘍選択性
- ✓ ADCでは難しい標的へのアクセスが可能
- ✓ シンプルかつ拡張性の高い製造プロセス

5

多機能ペプチド複合体
MPC



- ✓ RI、核酸、Cytotoxin等のペイロード送達のコンセプトを「リクルート・エンゲージ」に拡張
- ✓ 免疫エンゲージャー：バイオロジクスと同等の有効性を持ち、より高い安全性を達成できる可能性
- ✓ シンプルなペプチドを用いることで二重・三重特異性分子を創製できる高い可能性

2026年12月期 第2四半期ハイライトー 6プログラムが臨床入り

新規臨床入りに関する2026年ガイダンスを既に達成

現在**19**プログラムが
臨床開発段階

ペプチド (non-RI)
RI

2026年上期に新
たに6プログラム
が臨床入り

プログラム／モダリティ	対象疾患	パートナー	開始時期
AK1940	自己免疫疾患	旭化成セラピューティクス	2026/4
[¹⁷⁷ Lu]Lu-DWJ155 ¹⁾ [⁶⁸ Ga]Ga-DWJ155 ¹⁾	各種がん	Novartis社	2026/6
PD-32766T PD-32766D	腎細胞がん	自社	2026/7
非開示 (PETイメージング)	非開示 (免疫機能関連)	MSD社 ²⁾	2026/8



2027年以降も同様に臨床プログラム数の増加を見込む

期末の臨床プログラム数

パイプライン全体像: 放射性医薬品領域

2026年の進展

2025年度以降の進捗

	Disease Area	Program	Partner		IND-enabling / Ph0	Ph1 (Escalation/Expansion)	Ph2/Ph3 (Registrational)	Development Stage	
								Japan	Overseas
Theranostics / Therapeutics	Malignant Brain Tumors	⁶⁴ Cu-ATSM	LinqMed	 SM ² -RI				Ph3 Ongoing	—
	Prostate Cancer	¹⁷⁷ Lu-PSMA I&T	Curium Pharma	 SM-RI				Registrational Trial Initiated	Ph3 Completed ³⁾ Ph3 Ongoing
		⁶⁴ Cu-PSMA I&T							
	Hepatocellular Carcinoma	²²⁵ Ac-GPC3 (RYZ801)	RayzeBio	 P ⁴ -RI				Global Study Prep.	Ph1/1b Ongoing
		⁶⁸ Ga-GPC3 (RYZ811)							
	PDAC/NSCLC/BC/CRC	¹⁷⁷ Lu-FAP (FXX489/NNS309)	Novartis	 P-RI				—	Ph1 Ongoing
		⁶⁸ Ga-FAP (FXX489/NNS309)							
	Renal Cell Carcinoma	²²⁵ Ac-CA9 (PD-32766T)	In-house	 P-RI				Ph0 Completed	Ph1 Ongoing (US)
		⁶⁴ Cu-CA9 (PD-32766D)							
	BC/ NSCLC/ GEJ/ bladder cancer	[¹⁷⁷ Lu]Lu-DWJ155	Novartis	 P-RI				Ph1 Ongoing	Ph1 Ongoing
		[⁶⁸ Ga]Ga-DWJ155							
Gastric cancer	²²⁵ Ac-CLDN18.2 (PD-29875T)	In-house	 P-RI				IND-enabling/ Ph0 Ongoing	—	
	⁶⁴ Cu-CLDN18.2 (PD-29875D)								
Head and Neck Cancer	²²⁵ Ac/ ¹⁷⁷ Lu-CDH3	In-house	 P-RI				IND-enabling/ Ph0 Prep.	—	
	⁶⁴ Cu/ ⁶⁸ Ga-CDH3								
Oncology	Not yet disclosed	RayzeBio	 P-RI				—	Selected Clinical Dev. Candidate	
Oncology	Various Undisclosed programs	Various partners/ in-house	 P-RI				Not Disclosed	Not Disclosed	
Dx ¹⁾	Various Cancers	¹⁸ F-PD-L1 (BMS-986229)	Bristol Myers Squibb	 P-RI				—	Ph1 Completed
	Immune Function	Not yet disclosed	MSD ⁵⁾	 P-RI					Ph1 Ongoing

注：前臨床段階以降の主なプログラムを掲載、1) Dx: Diagnostics（診断）、2) SM: small molecule（低分子）、3) 患者組み入れが完了し、主要評価項目を達成、4) P: peptide（ペプチド）、5) Merck & Co., Inc., Rahway, NJ, USA

パイプライン全体像: ペプチド (non-RI) 領域

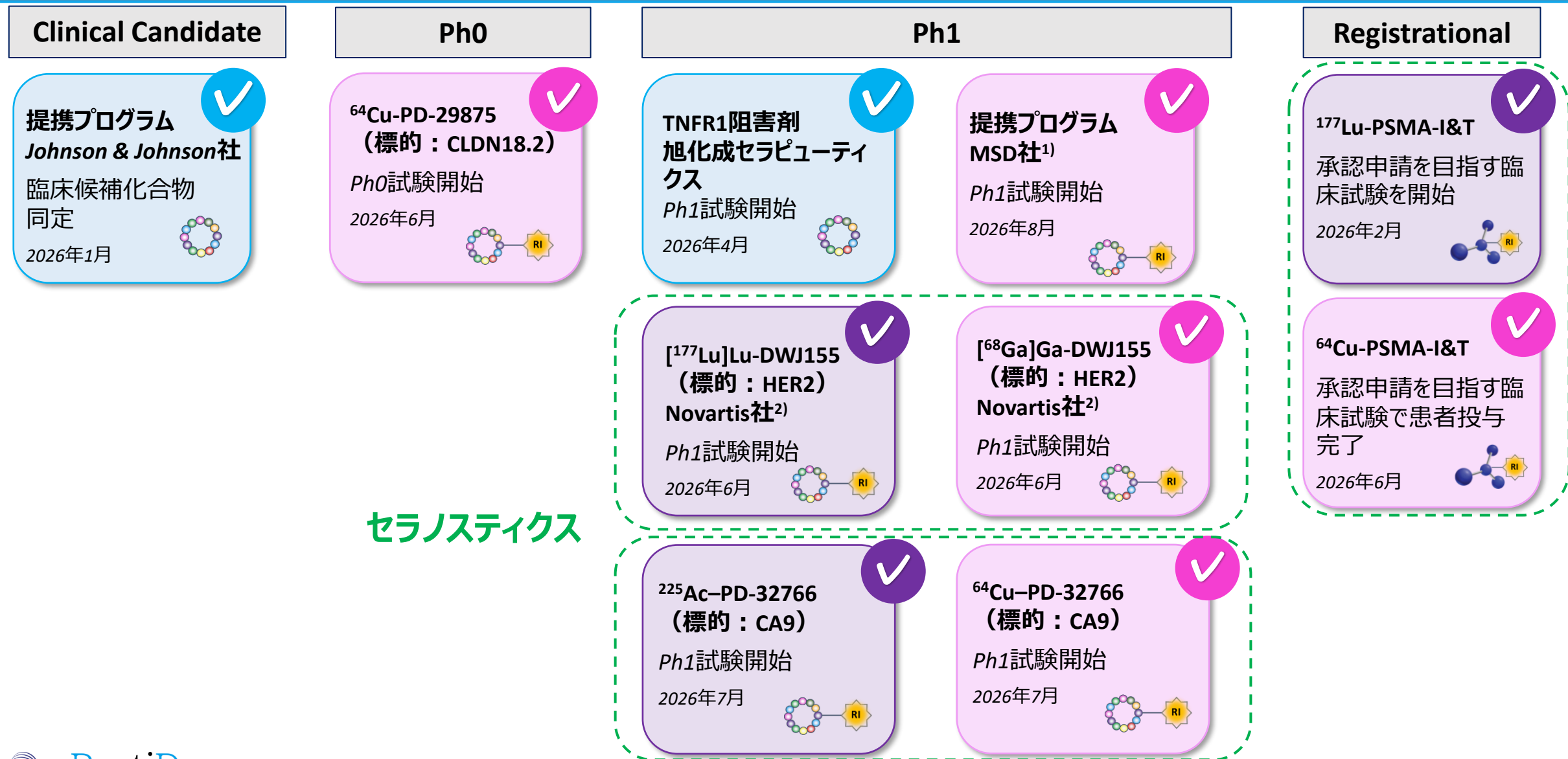
2026年の進展

2025年度以降の進捗

	Disease Area	Program	Partner		Pre-clinical/ IND-enabling	Ph1	Ph2	Ph3	Development Stage	
									Japan	Overseas
Clinical Programs	Acromegaly	GhR Antagonist (ALXN2420)	AstraZeneca	 Peptide					—	Ph2 Ongoing
	Multiple Myeloma	CD38-ARM™ (BHV-1100 + NK)	Biohaven	 MPC					—	Ph1a/1b Completed
	COVID-19	S2-protein Inhibitor (PA-001)	PeptiAID	 Peptide					Clinical Research Completed	Ph1 Completed
	Not Disclosed	Merck (Not disclosed)	MSD ¹⁾	 Peptide					—	Ph1 Ongoing
	Inflammatory Diseases	Merck (Not disclosed)	MSD ¹⁾	 Peptide					—	Ph1 Ongoing
	Autoimmune Diseases	Selective TNFR1 inhibitor (AK1940)	Asahi Kasei Therapeutics	 Peptide					Ph1 Ongoing	—
Selected Preclinical Programs	Allergic Diseases	KIT Inhibitor (MOD-B)	Alivexis	 SM					IND-enabling	—
	Obesity/ Muscle Disorders	Oral Myostatin Inhibitor	In-house	 Peptide					Pre-clinical Obesity	—
	Inflammatory / Immunology	Oral IL-17A/F Inhibitor	In-house	 Peptide					Pre-clinical	—
	Inflammatory Diseases	Not yet disclosed	Johnson & Johnson	 Peptide					Pre-clinical	—
	Not Disclosed	Oral/ Peptide Therapeutics	Various Partners/ in-house	 Peptide					—	—
	Not Disclosed	Oligo-PDC	Various Partners	 Oligo-PDC					—	—
	Not Disclosed	Cytotoxic-PDC	MSD ¹⁾	 Cytotoxic-PDC					—	—
	Not Disclosed	MPCs (Immune Engagers, etc.)	In-house	 MPC					—	—

2026年12月期 第2四半期 主な臨床開発進捗

自社プログラム・提携プログラムの両方において臨床開発が進捗



P D Rファーマ：販売力を将来の製品価値へ

既存製品売上を基盤に、後期パイプラインと政策の追い風により将来成長への期待

2026年12月期 上期 放射性医薬品セグメント 売上収益： 8,025百万円 （前年同期比 +242百万円）



**既存製品が生み出す
製品売上**

PET製品売上成長
+30% YoY

強固な収益基盤を保有

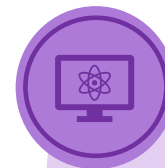


**企業価値向上
カタリスト**

^{64}Cu -PSMA I&T¹⁾
データ取得 FY2026 H2

^{177}Lu -PSMA I&T¹⁾
承認申請を
目指した試験を実施中

^{64}Cu -ATSM²⁾
Ph3試験を実施中



**戦略実現を
支える環境**

政府による重要性の認識
開発・製造・供給・医療インフラ
の整備

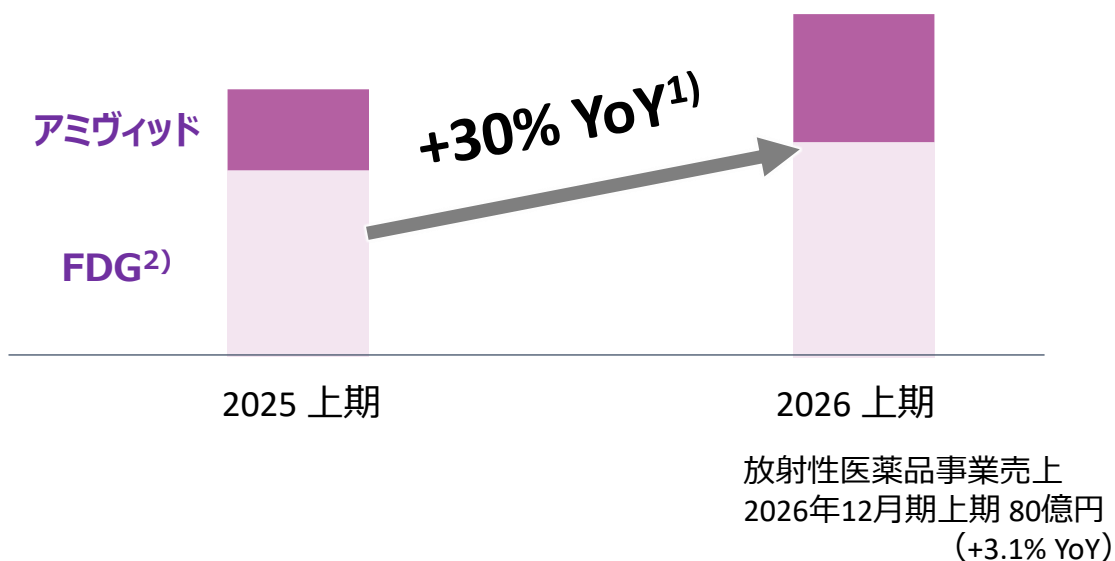
商業化にむけた環境整備

- ・ P D Rファーマは成長する製品基盤に加え、後期パイプラインを保有
- ・ 統合的な事業基盤が、日本における将来の製品収益を創出

既存製品の売上成長：PET売上が30%増加

アミヴィッドとFDGの成長がP D Rファーマの売上基盤を強化

PET製品関連の売上成長



成長要因

- **アミヴィッド**
アミロイド治療薬市場の拡大に伴い利用が拡大
- **FDG**
フレキシブルドーズの強みを活かし継続的な成長
- **PET需要**
診断領域での適用範囲が拡大

PET製品の成長がP D Rファーマの販売基盤を強化、後期パイプラインへの継続的な投資を支える

後期開発アセットの進捗、日本での製品売上伸長へ

国内で診断－治療の統合フランチャイズを構築

初の診断－治療統合フランチャイズ：PSMA標的前立腺がん

第2の後期開発アセット

^{64}Cu -PSMA I&T¹⁾ (診断)



- 再発病変の検出
- 転移病変の評価
- PSMA標的治療の患者選択

2026年6月：患者投与完了

2026年下期

：試験結果取得予定

直近
カタリスト

2027年：承認申請を計画

^{177}Lu -PSMA I&T¹⁾ (治療)



- ARSI²⁾治療後タキサン未治療mCRPC³⁾

2026年2月：患者投与開始

承認申請を目指した試験が進行中

2029年：承認申請を計画

^{64}Cu -ATSM⁴⁾



- 再発性悪性脳腫瘍の治療

2024年6月：患者投与開始
承認申請を目指したPh3試験が進行中

2028年：承認申請を計画

開発・承認・上市を経た将来的な製品売上の創出ポテンシャル

P D Rファーマは日本における薬事・製造・供給・販売機能を活用し、臨床開発に成功したアセットを将来的な製品売上へと転換できる体制を有している

放射性医薬品が日本の国家政策に明記

日本成長戦略会議および骨太の方針2026でRI医薬品の推進

日本成長戦略会議

17分野



11.創薬・先端医療

日本の将来の成長産業に官民で重点投資し、国際競争力と経済成長を高める



骨太の方針2026

創薬・先端医療への官民投資を拡大し、健康医療安全保障を実現するという方針のなかで、研究開発・生産等を推進する分野として、**RI医薬品**が指定

国家的な重要課題
に位置付け



RI分野への明確な
政策コミットメント

政府の動向

- 骨太の方針2026
研究開発・生産等を推進する分野として、RI医薬品が指定された
- 内閣府原子力委員会
2026年4月に専門部会が設置された

RI医薬品の位置づけが明確に

- RIサプライチェーン強化
- 国内製造能力の強化
- 治療実施体制・医療機関インフラ整備
- 導入と普及に向けた関係者間の連携強化

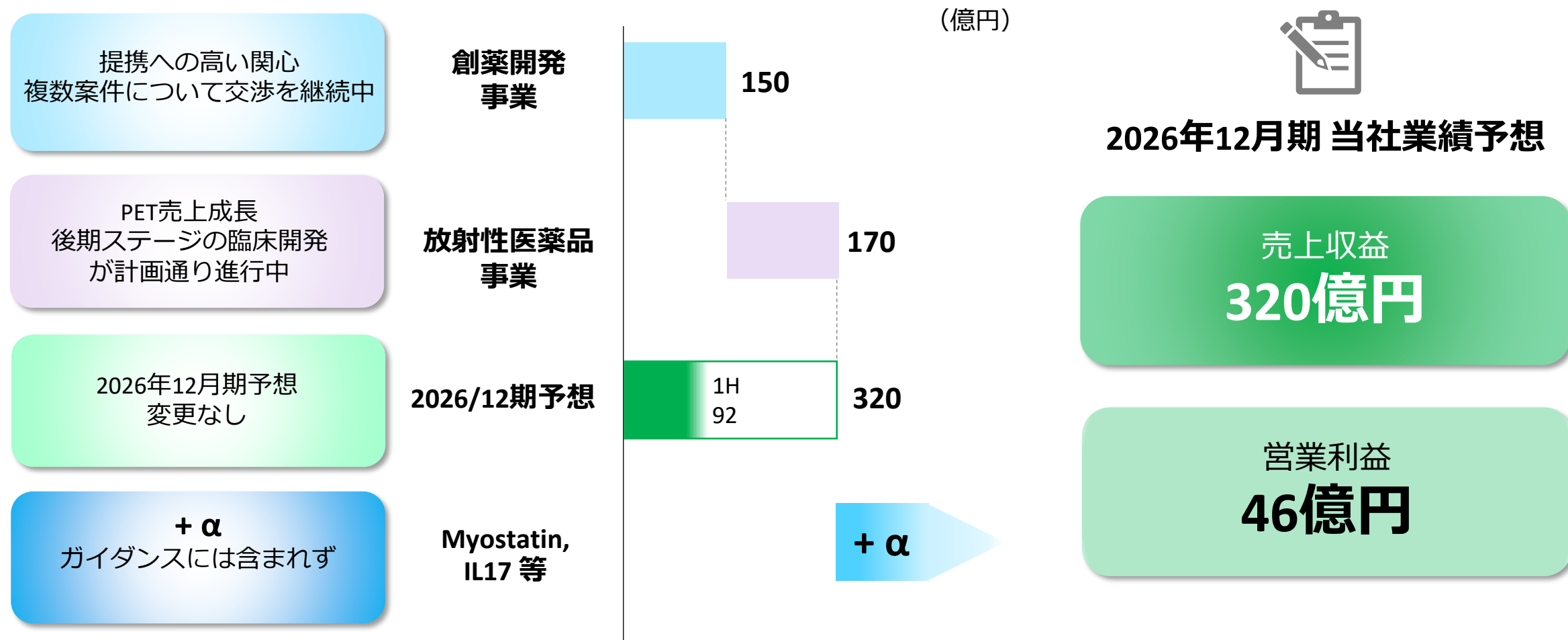
将来の自社放射性医薬品の上市を視野に新製造設備への投資を計画中、
重要な政策的追い風

2026年12月期 第2四半期 連結業績 概要

連結業績 (百万円)	2025年12月期 Q2 (1-6月)	2026年12月期 Q2 (1-6月)	前年同期比	2026年12月期 予想
売上収益	8,543	9,226	+683	32,000
創薬開発事業	760	1,201	+441	
放射性医薬品事業	7,783	8,025	+242	
EBITDA	(1,609)	(1,409)	+200	
営業利益	(2,625)	(2,534)	+91	4,600
親会社の所有者に帰属する当期利益	(2,122)	(1,999)	+123	3,000
四半期利益	(2,122)	(2,005)	+116	
1株当たり四半期利益 (円)	(16.40)	(15.51)	+0.89	

2026年度業績予想を堅持

事業は計画どおり進捗しており、FY2026業績予想を維持



*主要な自社プログラムにおいて、当社は開発を推進するとともに、その価値を最大化できる**最適なパートナー**の発掘・選定に注力しています。
+ αは2026年12月期 業績予想に織り込んでいない提携・導出案件の可能性を示しており、アップサイド要因となり得ます。

戦略実行のためのキャッシュ・ポジション



パイプライン成長とインフラ能力拡大に向けた設備投資の両面への投資を計画

自社プログラム開発のための投資



手元資金 **236億円**

- 2026年12月期・2027年12月期における新たな提携・契約の獲得により、手元資金はさらに拡大する見込み
- 研究開発費は、CA9、CLDN18.2、PSMAの臨床開発費用に加え、IL17、Myostatin、MPCに関する研究費用の増加を主因として増加する見込み
(2025年12月期 実績50億円に対し、2026年12月期計画65億円)
- 年間の研究開発投資は、売上収益・利益の見通しとのバランスを考慮しながら適切に管理

継続する事業拡大のための投資

新研究棟

立地： 神奈川県
プロジェクト期間： 2027-2029年
投資額： 120-150億円



新製造設備

立地： 千葉県
プロジェクト期間： 2027-2028年
投資額： 100-120億円



- 上記2つの設備投資については低金利での長期銀行借入の活用を計画
- コスト負担を低減するため、活用可能な政府支援策、税制優遇措置および補助金制度の活用を検討

7月からのリーダーシップ体制



リード・パトリック
代表取締役社長
CEO



村上 雅人
取締役EVP
(放射性医薬品事業&開発)



Christian Cunningham
EVP (研究)



大浦 佳世理
EVP (オペレーション)



河野 順
EVP (経営戦略)



志方 幸道
EVP (ピープル&カルチャー)



陳 彦廷
VP (事業開発&アライアンス
マネジメント)



川村 直輝
VP (放射性医薬品事業)



康 泰樹
VP (経営戦略&オペ
レーション)



宮川 研悟
VP (ファイナンス)



井上 千恵子
VP (法務&知的財産)



沖本 優子
VP (コーポレートコミュニ
ケーション)

3名のEVPが新たに参画



大浦 佳世理
エグゼクティブ・ヴァイスプレジデント：
オペレーション

- ・ 協和発酵キリン米国法人にて臨床開発全般を経験後、プリストル・マイヤーズ スクイブ米国本社において、大規模グローバル組織の統括やグローバル臨床開発の推進を担当。その後、日本法人へ出向し、執行役員としてアジア臨床開発オペレーション部の統括やコマーシャルオペレーションの統括を行う
- ・ グローバルヘルス技術振興基金（GHIT）のCEOを歴任し、グローバルヘルス分野における国際的な官民連携を推進
- ・ ラボコープ日本法人代表取締役社長・ゼネラルマネージャーならびにイルミナ株式会社 代表取締役社長/ゼネラルマネージャーとして、日本におけるサービス及びNGS（次世代シーケンサー）の販売事業・運営を主導
- ・ スギホールディングス社外取締役を兼務



河野 順
エグゼクティブ・ヴァイスプレジデント：
経営戦略

- ・ アステラス製薬において米国および欧州で製薬事業のグローバル化とリージョンのオペレーションリーダーシップを担ったほか、グローバル事業開発責任者を歴任
- ・ 直近では同社 担当役員 日本コマーシャルヘッドを務め、日本市場における営業戦略およびオペレーションを主導
- ・ グローバル製薬企業における経営戦略、事業開発、コマーシャルおよびグローバル・リージョナルオペレーションのリーダーシップ実績
- ・ シカゴ大学ブース・スクール・オブ・ビジネス 経営学修士（MBA）取得



志方 幸道
エグゼクティブ・ヴァイスプレジデント：
ピープル&カルチャー

- ・ エーザイ株式会社のニューロロジユニット ロンドン研究室にてプリンシパルサイエンティストとして勤務するなど、研究職としてのキャリアを経て、長年にわたり豊富な人事・人材開発の経験を有する
- ・ 直近ではエーザイ株式会社のグローバルHR戦略推進部長として、組織力とグローバル人材力の強化を主導
- ・ 岡山大学大学院 医学研究科 博士課程修了 博士号取得

次世代医薬品の創出を支えるサステナビリティへの取り組み

サステナビリティと事業成長による持続的な価値創造の実現に向けて

継続的なサステナビリティへの取り組み

(2025年からの主な進捗)



Governance

新たなリーダーシップ体制の導入による経営ガバナンスの強化



Climate

グループ全体の使用電力の80%を再生可能エネルギーへ転換



Water

2030年に向けたグループ水使用量削減目標の設定



People

月村選手が2025 ワールド車いすラグビー アジア・オセアニアチャンピオンシップに日本代表として出場し優勝

ESGパフォーマンスに対する外部からの評価



最高評価「Aリスト」



FTSE JPX Blossom Japan Index

6年連続で選定



FTSE JPX Blossom Japan Sector Relative Index

5年連続で選定



環境情報開示と炭素効率性を評価

2024 CONSTITUENT MSCI日本株女性活躍指数 (WIN)

性別多様性に優れた企業を評価

注：FTSE Russell (FTSE International Limited と Frank Russell Companyの登録商標)はペプチドリーム株式会社が第三者調査の結果、FTSE JPX Blossom Japan Index、FTSE JPX Blossom Japan Sector Relative Index組み入れの要件を満たし、本インデックスの構成銘柄となったことを証します。FTSE JPX Blossom Japan Index、FTSE JPX Blossom Japan Sector Relative IndexはグローバルなインデックスプロバイダーであるFTSE Russellが作成し、環境、社会、ガバナンス (ESG) について特定の対応を行っている日本企業のパフォーマンスを測定するために設計されたものです。FTSE JPX Blossom Japan Index、FTSE JPX Blossom Japan Sector Relative Indexはサステナブル投資のファンドや他の金融商品の作成・評価に広く利用されます。THE INCLUSION OF PEPTIDREAM INC. IN ANY MSCI INDEX, AND THE USE OF MSCI LOGOS, TRADEMARKS, SERVICE MARKS OR INDEX NAMES HEREIN, DO NOT CONSTITUTE A SPONSORSHIP, ENDORSEMENT OR PROMOTION OF PEPTIDREAM INC. BY MSCI OR ANY OF ITS AFFILIATES. THE MSCI INDEXES ARE THE EXCLUSIVE PROPERTY OF MSCI. MSCI AND THE MSCI INDEX NAMES AND LOGOS ARE TRADEMARKS OR SERVICE MARKS OF MSCI OR ITS AFFILIATES.

質疑応答

參考資料

ペプチドリームが目指す姿

当社が掲げる「ミッション・ビジョン・バリュー」の実現に向けて、着実に歩みを進めてまいります

世界をリードする
創薬バイオベンチャーとして



Mission

医療のあり方や患者さんの人生に
変革をもたらす次世代医薬品の創出

Vision

特殊環状ペプチドを用いて革新的な医薬品の創
出を先導し、世界中の患者さんのQOL向上に貢
献する「**Drug Discovery Powerhouse®**」を
目指します

Value

「誠実」であることを重要な行動規範とし、
各領域で「高い専門性」をもつ一人ひとりが、
次世代医薬品創出への「情熱」をもち、
世界中の研究者と協働する場でありたい

ペプチドリームの紹介

ペプチドリーム/ P D Rファーマ



日本を代表するバイオテック企業

- ペプチドリームは創薬開発事業を実施しており、放射性医薬品事業を実施する100%子会社であるP D Rファーマと、環状ペプチドを活用したペプチド医薬品・ペプチド-薬物複合体（PDC）・放射性医薬品（治療薬/診断薬）の創薬・開発・製造・販売を行っている
- グループ全体で750人以上の従業員数



ペプチド創薬のグローバルリーダー

- ペプチドリーム（2006年設立）は、ペプチド創薬の領域でグローバルな地位を構築
- 多くのグローバル大手製薬企業とのパートナーリングを拡大



国内での放射性医薬品領域を牽引

- PDRファーマ(1968年設立)は、国内で放射性医薬品事業を行う2社のうちの1社(8品目の放射性治療品、21品目の放射性診断薬)
- グローバルなパートナーシップを通じて国内での放射性医薬品領域のシェア拡大を目指す



PeptiDream

Revolutionizing Drug Discovery TSE Prime: 4587

★ 本社・研究所

☆ 新研究棟



PD Radiopharma

A PeptiDream Company

★ 本社

● 生産・研究拠点

○ 放射性医薬品の新製造工場
(かずさアカデミアパーク)

■ 営業拠点 (8拠点)

PDRファーマ
本社（東京）

PDRファーマ千葉工場
(千葉県山武市)



PDRファーマ
茨木PETラボ



PDRファーマ川
崎PETラボ

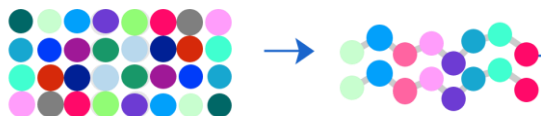


ペプチドリーム本社
(川崎)

PDPS®—ペプチドリーム独自のペプチド創薬プラットフォーム

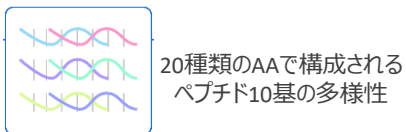
進化を続けるペプチド創薬プラットフォーム

ペプチドを構成するアミノ酸（AA）



当社独自の3,000種類以上のAAライブラリー

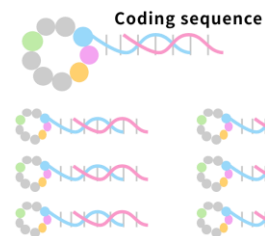
ランダム化DNAライブラリー



$$20^{10} = 10,240,000,000,000$$

数兆種類のペプチドライブラリーを構築

環状ペプチド



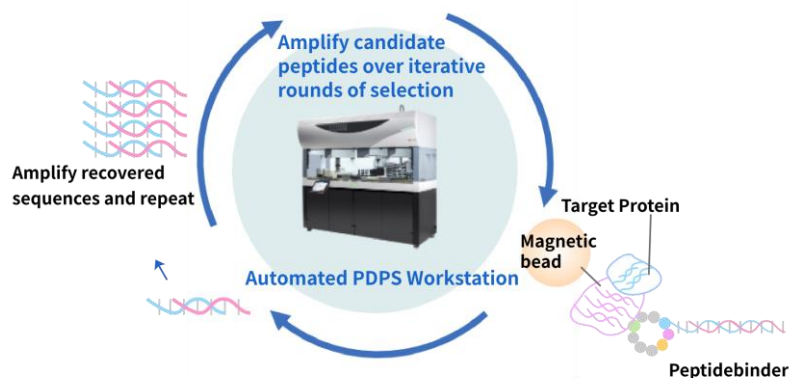
タンパク生合成系を活用した無細胞翻訳系



翻訳されたペプチドをmRNA/cDNAタグを介してバーコード化

進化し続けるプラットフォーム

- ↔ AAライブラリーの継続的な拡大（200⇒3,000）
- ↔ プラットフォームの自動化
- ↔ シミュレーション、モデリングなどの各種*in silico*手法の進化
- ↔ 関連知財で特許ポートフォリオを構築し堅牢化



高いヒット取得率



ほぼ全てのターゲットに対して、高い親和性と選択性を有するペプチドを迅速かつ効率的に同定可能



他の技術では得られないユニークなヒットペプチドの取得が可能



PDPS®はヒットペプチドの最適化にも適用可能

(2006)



ペプチド創薬に取り組む
大手製薬企業は
限定的

(現在)



多くの大手製薬企業が
ペプチド創薬に参入

ペプチドリームは、ペプチド創薬の進化をリード

PDRファーマの販売製品



販売している主な製品

中枢神経

■ アミヴィッド® 静注	PET	¹⁸ F	アミロイドイメージング剤
■ タウヴィッド® 静注	PET	¹⁸ F	タウイメージング剤
■ ニューロライト®	SPECT	^{99m} Tc	局所脳血流診断薬

循環器

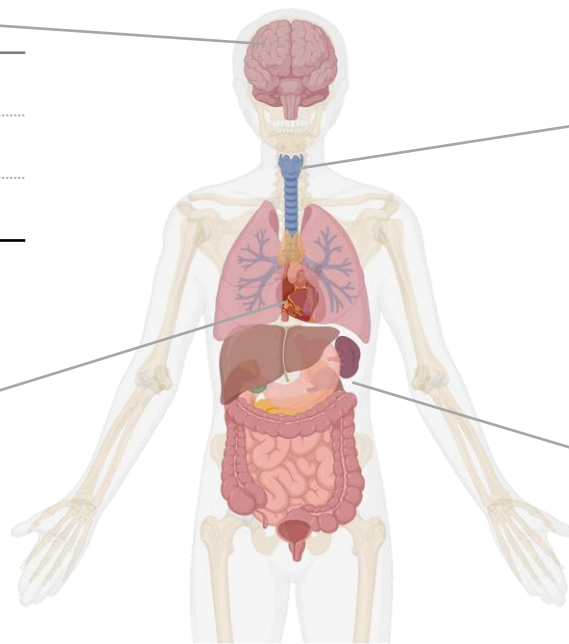
■ ミオMIBG®	SPECT	¹²³ I	心交感神経診断薬・神経芽腫診断薬・褐色細胞腫診断薬
■ カーディオライト®	SPECT	^{99m} Tc	心臓疾患診断薬・心機能診断薬・副甲状腺疾患診断薬
■ 塩化タリウム	SPECT	²⁰¹ Tl	心臓疾患診断薬・腫瘍診断薬・副甲状腺疾患診断薬

Bone

■ テクネ® MDP	SPECT	^{99m} Tc	骨疾患診断薬・脳腫瘍及び脳血管障害診断薬
------------	-------	-------------------	----------------------

■ 治療薬

■ 診断薬



がん

■ フルデオキシグルコース	PET	¹⁸ F	悪性腫瘍診断薬・虚血性心疾患診断薬・てんかん診断薬
■ ライアットMIBG	-	¹³¹ I	褐色細胞腫・パラガングリオーマ・神経芽腫治療薬

甲状腺

■ ヨウ化ナトリウムカプセル	-	¹³¹ I	甲状腺疾患治療薬・甲状腺疾患診断薬
■ ウルトラテクネカウ®	SPECT	^{99m} Tc	脳・甲状腺・唾液腺及び異所性胃粘膜疾患診断薬・局所肺換気機能診断薬

腎臓

■ テクネ® DTPA	SPECT	^{99m} Tc	腎疾患診断薬
-------------	-------	-------------------	--------

神経内分泌

■ オクトレオスキャン®	SPECT	¹¹¹ In	神経内分泌腫瘍診断薬
--------------	-------	-------------------	------------

放射性医薬品領域におけるトータルソリューション

放射性医薬品



放射性診断薬



- 21製品を販売

放射性治療薬



- 8製品を販売

投与装置



投与システム



インジェクター・ディスペンサー
自動投与システム

ポータブル 投与量管理システム



- RI医薬品の使用履歴・実投与量を電子情報化
- PET検査の時間管理システム

画像解析 ソフトウェア



画像解析



- PET検査画像に基づきβアミロイド蓄積を画像解析



- 脳血流の状態を画像解析



- 心筋血流・心筋機能を解析



- 骨疾患の画像解析

マネジメント システム



国際管理基準準拠



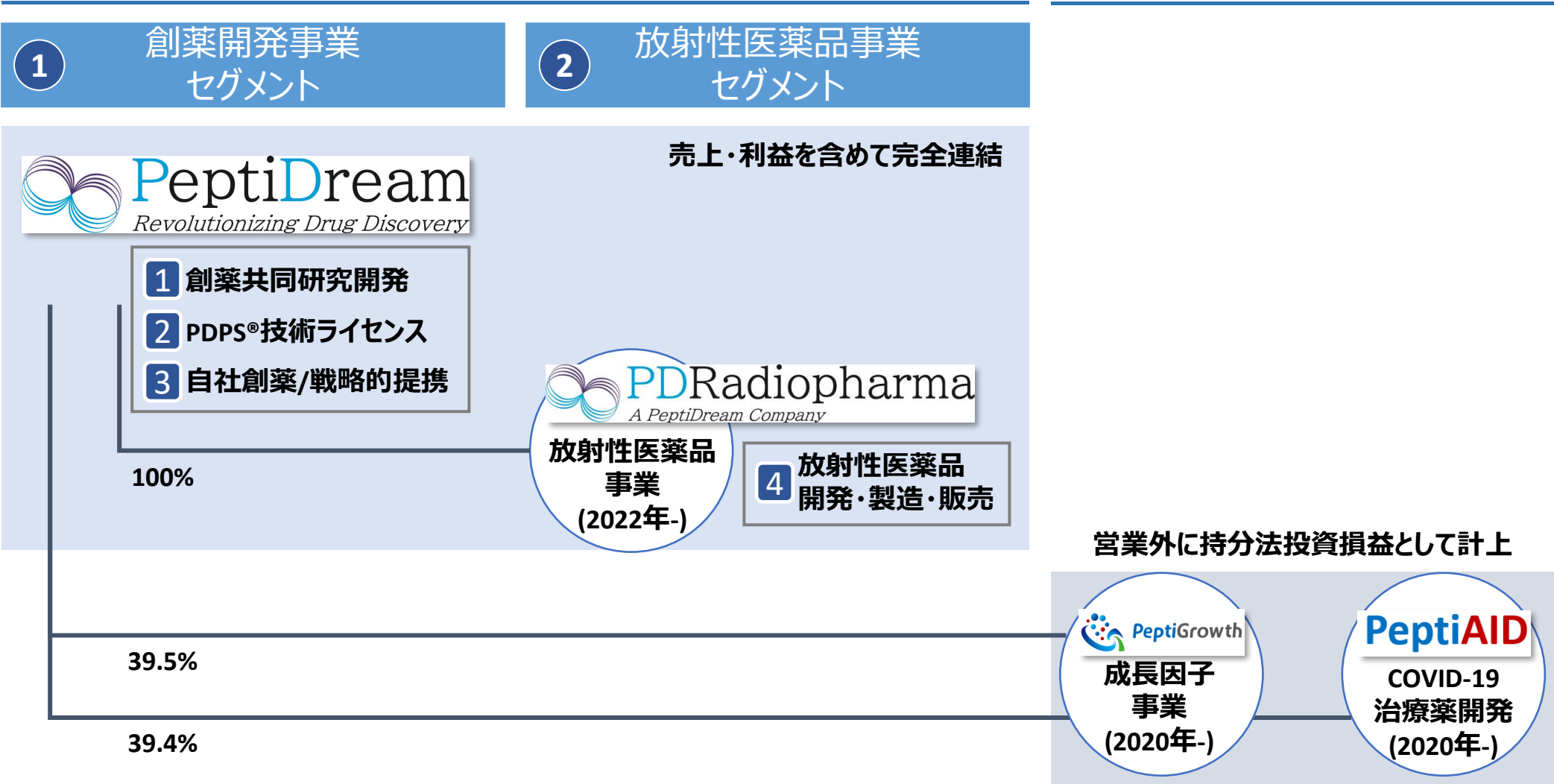
- RI被ばくの線量記録・管理と画質評価指標の算出



ペプチドリーム・グループの連結・持分法適用会社

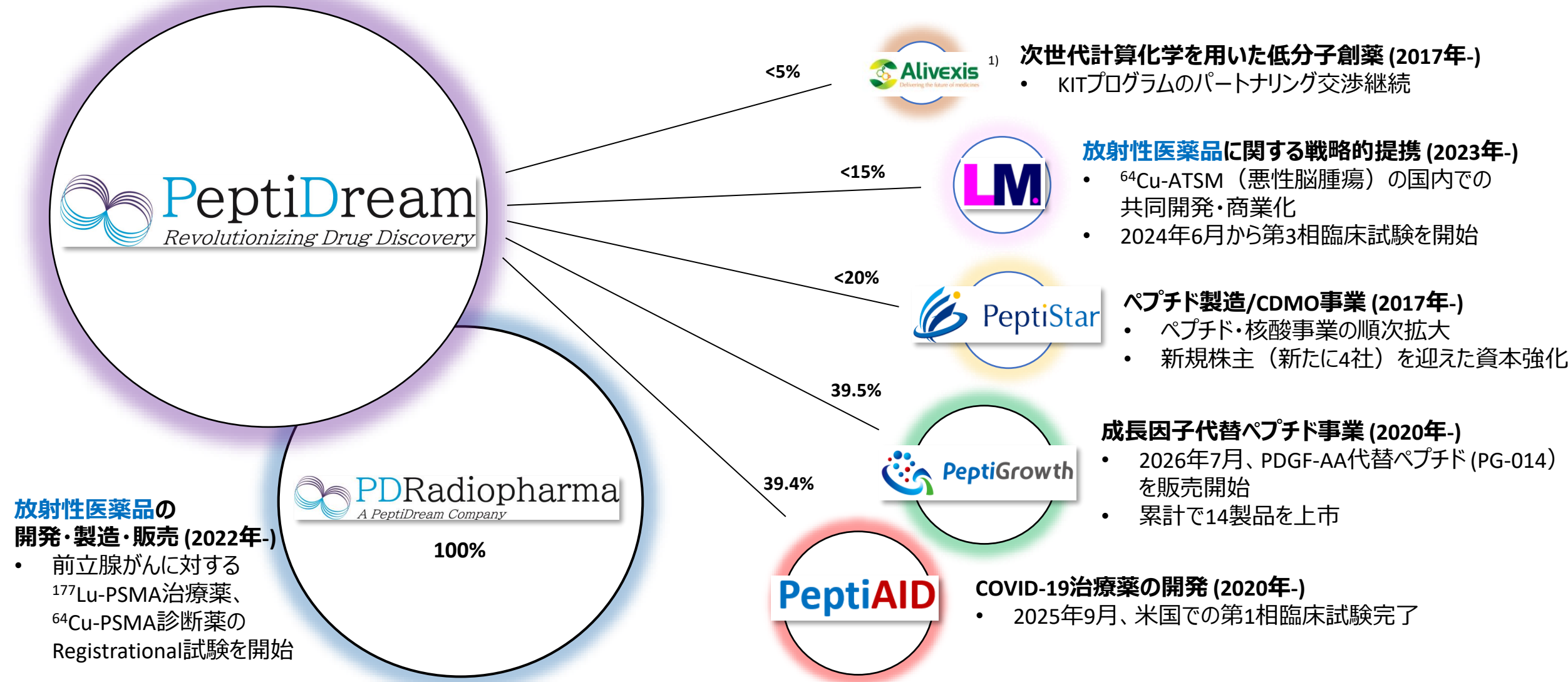
完全連結

持分法適用



注：ペプチスター、Alivexis、リンクメッドについては、当社が保有する株式価値の増減分を包括損益として計上。

戦略的投資先・関連会社における主な進捗



ペプチドリーム 社外取締役



独立社外取締役（監査等委員）
神谷 紀一郎

- ヘキスト・ジャパン(株)、JSR(株)上席執行役員、JSRライフサイエンス(株)取締役社長、(株)医学生物学研究所(MBL) 取締役を経て、2025年3月に当社取締役（監査等委員）就任
- 現在、当社独立社外取締役（監査等委員）



独立社外取締役（監査等委員）
宇都宮 純子 (弁護士)

- 長嶋・大野・常松法律事務所、宇都宮・清水・陽来法律事務所 開設パートナーを経て、2021年3月に当社取締役（監査等委員）就任
- 現在、当社独立社外取締役（監査等委員）



独立社外取締役（監査等委員）
花房 幸範 (公認会計士)

- 青山監査法人を経て、アカウンティングワークス(株)設立代表取締役、アーランドサービス(株)（現アーランドサービスホールディングス(株)）監査役を経て、2017年9月に当社取締役（監査等委員）就任
- 現在、当社独立社外取締役（監査等委員）



独立社外取締役（監査等委員）
西山 潤子

- ライオン油脂(株)（現 ライオン(株)）入社。購買本部製品部長、生産本部第2生産管理部製品購買担当部長、研究開発本部包装技術研究所長、CSR推進部長、同社常勤監査役を経て、2025年3月に当社取締役（監査等委員）就任
- (株)荏原製作所 社外取締役（監査委員会委員）、戸田建設(株) 社外監査役（現任）
- 現在、当社独立社外取締役（監査等委員）

当社をカバーする証券アナリスト一覧

会社名（五十音順）	アナリスト（敬称略）
岩井コスモ証券	斎藤 和嘉
株式会社エース経済研究所	池野 智彦
SMBC日興証券株式会社	和田 浩志
株式会社SBI証券	川村 龍太
ゴールドマン・サックス証券株式会社	植田 晃然
ジェフリーズ証券会社	山木田 雅
シティグループ証券株式会社	山口 秀丸
大和証券株式会社	橋口 和明
野村證券株式会社	松原 弘幸
丸三証券株式会社	大野 剛
みずほ証券株式会社	石田 優理子

将来見通しに関する留意点

本資料に記載されている将来に関する記述を含む過去の事実以外のすべての記述は、当社が現在入手している情報に基づく現時点における計画、予測、想定、戦略等を基礎として記載されている見通しであり、未知のリスクと不確実な要素を含んでいます。様々な要因によって、これらの将来の見通しと実際の結果が大きく異なる可能性があることをご承知ください。

その要因としては、(1) 創薬・医薬品開発に伴う遅延・中断リスク、(2) クライアントの方針転換による予期せぬプログラムの中断・終了リスク、(3) 製品の製造や原材料の調達に関わるリスク、(4) 競合企業・競合技術の出現による競争力低下の影響、(5) 製品販売力の低下、(6) 当社グループの知的財産権に対する侵害あるいは重大な訴訟における不利な判決、(7) 経済情勢の悪化や関係法規制の改正、(8) 金利・通貨為替の変動等が考えられますが、これらに限定されるものではありません。

本資料に含まれている医薬品（開発中のものを含む）に関する情報は、宣伝広告・医学的アドバイスを目的としているものではありません。

本資料は、当社グループの事業に関する情報提供を目的としたものであり、当社が発行する有価証券の投資を勧誘することを目的としたものではありません。本資料の利用にあたっては、利用者の責任によるものとし、本資料に記載されている情報の誤り等により生じた損害について、当社は一切責任を負うものではありません。



PeptiDream
Revolutionizing Drug Discovery